

RBProceedings 文書クラス サンプル文書

佐藤 **¹, 鈴木 **¹, 高橋 **², 田中 **³
伊藤 **^{1,3}, 渡辺 **^{1,4}

¹ 大学, ² 大学, ³ × × 株式会社, ⁴ 研究所

概要

概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．概要の例文．

1 はじめに

RBProceedings 文書クラスは W3C により策定されている『日本語組版の要件』[1] に準拠することを目指す jlreq クラスをベースにしている．ただし，本文書クラスでは紙面スペースの都合上，多くの余白値をかなり詰めるように設定しており，例えば行間は外国人参政権のようにルビを振れる最小限の余白に設定してある．

論文では，単純なテキストのみならず，しばしば数式

$$P(B | A) = \frac{P(A | B)P(B)}{P(A)} \quad (1)$$

や箇条書き

- 第 1 の項目
- 第 2 の項目

といった構造も用いられるが，これらもよく知られた文書クラス（例えば jsarticle 等）と同様のシンタックスで利用できる．

2 図表の挿入

図表についても通常の L^AT_EX と同じ方法を用いることができる．

2.1 図について

図の挿入は，通常 graphicx パッケージによって行う（図 1）．クラスオプションにワークフロー（dvipdfmx 等）を指定していれば，各パッケージを読み込む際に何度も同じオプションを指定する必要はない．



図 1 図の例

表 1 表の例

日本語	Japanese	ほげほげ	ふげふげ
英語	English	hogehoge	fugefuge

2.2 表について

表の挿入は，`\begin{table}...\end{table}` 環境を使う（表 1）．

3 参考文献

参考文献の参照例．

- 論文誌の参照例 [2]
- 本の参照例 [3]
- 国際会議の参照例 [4]
- 技術報告の参照例 [5]
- Web ページの参照例 [6]

4 Writing in English

This paragraph shows an English sample. There is no problem with writing your manuscript in English. If you write in L^AT_EX, please use the distributed document class with the english option:

```
\documentclass[  
    platex,dvipdfmx,english]{rbproceedings}
```

参考文献

- [1] W3C 日本語組版タスクフォース．日本語組版の要件（日本語版），（2020-11 閲覧）．<https://www.w3.org/TR/jlreq/>.
- [2] FirstName LastName. Title of the article. **Journal of Natural Language Processing**, Vol. 13, No. 1, pp. 251–258, 2006.
- [3] FirstNameA LastNameA, FirstNameB LastNameB, FirstNameC LastNameC, and FirstNameD LastNameD. **Title of The Book**. The Association for Natural Language Processing, 1988.
- [4] 著者氏名 1, 著者氏名 2, 著者氏名 3. 論文タイトル. プロシーディングスの名前, 1986.
- [5] 著者氏名 1, 著者氏名 2, 著者氏名 3, 著者氏名 4. 技報タイトル. Technical report, 出版者, 1985.
- [6] 著者氏名. ホームページタイトル, 2017. <http://www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/NLP/>.